

平成27年度「災害地の子どもたちの学びや育ちの支援活動助成」

助成先選考結果のご報告

平成27年度の「災害地の子どもたちの学びや育ちの支援活動助成」につきまして、助成先が決定いたしましたので、ご報告いたします。

助成先団体及び対象となる事業 (50音順)

団体名	事業名	助成額
特定非営利活動法人 アスイク	被災地で増加している不登校の子どもたちのフリースクール事業	¥2,000,000
特定非営利活動法人 OurPlanet-TV	南相馬の子どもたちと記録映画をつくる ～「Work in Progress」手法を取り入れた映像制作事業および上映活動によるエンパワメント	¥1,200,000
特定非営利活動法人 おいたまサロン	避難世帯の子どもたちへの学習支援と子どもと家族のための居場所づくり事業	¥1,899,840
特定非営利活動法人 キッズドア	震災により経済的困窮が続く仙台市で高校生向け学習支援機能付き居場所の運営	¥1,800,000
一般社団法人 子どものエンパワメントいわて	「学びの部屋」釜石(唐丹中学校、釜石東中学校) 「学びの部屋」大船渡(赤崎公民館、太田仮設)	¥2,000,000
特定非営利活動法人 底上げ	気仙沼市、南三陸町における仮設住宅に入居している小中高生を対象とした学習コミュニティ支援活動	¥1,634,000
特定非営利活動法人 地球対話ラボ	インドネシア・アチェと東松島市の子ども国際交流事業 「被災地から未来への対話/壁画の架け橋」	¥2,000,000
特定非営利活動法人 パクト	陸前高田市市内における『子ども支援ネットワーク会議』の継続運営	¥1,500,000
一般社団法人 まなびの森	山元まなびの森構想	¥2,000,000
特定非営利活動法人 亘理いちごっこ	亘理こどもサポート事業	¥2,000,000
		<b>¥18,033,840</b>

# 公益財団法人ベネッセこども基金

2016年4月11日

## 【今回の助成について】

**助成対象**：東日本大震災で大きな被害をうけた地域の子どもたちを支援する団体の活動

**募集期間**：平成27年11月18日～平成28年1月5日

**助成金総額**：20百万円以内

**応募数**：45件

**採択事業数**：10件（計 18,033,840円）

※11件を採択したが、その後1団体から辞退の連絡があり、10件となった。

**助成対象となる活動期間**：平成28年4月1日～平成29年3月31日

**選考委員会**：助成選考に際しては、本テーマに関して専門的知見を持つ4名の選考委員（当財団理事1名と社外有識者3名）で組織する選考委員会にて、当財団の助成目的に基づき、厳正な審査を行った。

## 今回の審査について、および助成先に期待すること・・・耳塚理事・選考委員長より

今年度の本助成テーマにおいては、東日本大震災によってとりわけ大きな被害をうけた東北3県（岩手・宮城・福島）の子どもたち（他県への避難者含む）を支援する団体の活動に対して助成を行います。

震災発生から5年が経過しましたが、決して復興が終わったとは言えない状況があります。とりわけ災害地の子どもの学びや育ちを保証するという点では、自治体と民間団体が相互に連携して、自立的かつ継続的に活動できる新たな枠組みを構築していくべき時期を迎えています。子どもを取り巻く環境、課題、国や自治体の施策も変化する中で、子どもの学習や育成の支援に取り組む団体において、ユニークな取り組みや実績がありながらも、活動の継続が難しくなるケースも出てきています。そのような状況を鑑み、本テーマにおいては実績のある活動の継続やレベルアップという視点を重視して選考を行いました。

申請書を拝見していると、震災から5年たって、被災によって発生した困難に加えて、震災前からこの地域にあったと思われる根本的な課題に対する取り組みという側面も強くなっている、と感じています。個々には、各団体が工夫をこらして展開した個性的で多様な取り組みがみられますが、助成する団体間での交流が進めば、お互いの知見を活用した、一層効果的な取り組みが期待できるのではないのでしょうか。今回の助成を通じてそんな関係づくりのお手伝いもできれば、と考えています。

## 助成団体からのメッセージ（五十音順）

### 【団体名】

特定非営利活動法人アスイク

### 【URL】

<http://asuiku.org>

### 【申請事業名】

被災地で増加している不登校の子どもたちのフリースクール事業

### 【メッセージ】

当団体を助成先として選定いただき、ありがとうございます。

仙台市、宮城県では、もともと全国的にも高かった不登校率が震災後に増加しています。特に、経済的な困難を抱えた不登校の子どもたちが行き場所を失ってしまわないよう、仙台駅近くにフリースクールを開設しました。

学校などとの接点を失った子どもたちが社会とのつながりを保つ場として、人との関わりから自信を取り戻す場として、さまざまなアクティビティから次の一歩を踏み出す場として、このフリースクールを発展させていきたいと考えております。

活動報告のブログもありますので、ぜひご覧ください。

<http://ameblo.jp/asuiku-fs>

## 【団体名】

特定非営利活動法人 OurPlanet-TV

## 【URL】

<http://www.ourplanet-tv.org>

## 【申請事業名】

南相馬の子どもたちと記録映画をつくる  
～「Work in Progress」手法を取り入れた映像制作事業  
および上映活動によるエンパワメント

## 【メッセージ】

東日本大震災から5年が経ち、震災や原発事故に対する関心が急速に低下しています。震災関連の助成や支援の枠も、残念ながら減少傾向にあります。私たちのような小さな団体にとって、自主財源だけでは賄いきれない新しい事業への助成は大きな力です。とくに今回のような災害地の子どもを対象とした支援活動への助成は、まさに私たちが必要としていたものであり、大変心強い支援になっております。私たちの活動をご支援いただいている皆さまに、心より感謝申し上げます。

今回のプログラムでは、「復興」の影で、被災地の日常や生活の節々にどんな問題が今なお続くのか、被災地の子どもたちの目線から伝える記録映画を作り、広く上映することを目指しています。子どもたち自身が制作過程に参加することで、自らの「声」に気づき、困難な状況の中でも将来への希望を見いだすエンパワメントとなるようにプログラムを進めていく予定です。映像制作のノウハウを学ぶ機会だけでなく、講師や仲間とのディスカッションや、上映活動での対話を通して、様々な出会い・発見の場を創り出していければと思っています。

## 【団体名】

特定非営利活動法人 おいたまサロン

## 【URL】

団体 HP : <http://oitamasalon.com/>

避難者支援活動報告 HP : <https://www.facebook.com/yonezawafuwatto/>

## 【申請事業名】

避難世帯の子どもたちへの学習支援と子どもと家族のための居場所づくり事業

## 【メッセージ】

東日本大震災で被災した私たちに、このようなご支援を本当にありがとうございます。

震災直後は、まさか自分たちにこのような事態が起こるとは想像できず、ただ不安しかありませんでしたが、避難先で「ふわっと」という居場所ができたお陰で同じ境遇の避難者同士が繋がることができ、それが支えになっています。

助成により学習支援をはじめマクロビオティック教室など未来ある子どもたちやお母さん方のためになるものを開催しようと思っています。

マクロビオティック講座では、食を通して健康について見つめ直すことができます。

食べ物は、身体をつくるということ。お母さんが作る料理が子どもたちの身体をつくれます。健康な身体をつくるための食事と、様々な症状に合わせて自分でできる手当て法を学び、お母さんが家庭のホームドクターとなれるよう、自分や家族の健康維持のためにしっかり習得して日々の生活に役立てて行きたいと思います。

## 【団体名】

特定非営利活動法人キッズドア

## 【URL】

<http://www.kidsdoor.net/index.html>

## 【申請事業名】

震災による経済的困窮が続く仙台市での高校生向け  
学習支援機能付き居場所の運営

## 【メッセージ】

仙台市および近隣地区の困窮家庭の高校1～3年生を対象に、学習支援と相談できる居場所を提供します。おもに、母子家庭、生活保護家庭、就学援助家庭などのご家庭では、震災の直接的被害（全壊、半壊、自営業の倒産、失業）以外にも、間接的被害（収入が減るなど）により、なかなか回復できていないご家庭も多くいらっしゃいます。家庭環境が複雑で、保護者自身が課題を抱えているご家庭も多く、生徒は学校でも家庭でも孤立しがちです。相談相手もいない（保護者には相談に答える知識も余裕もない）ために、安易に学校を中退したり問題を起こしてしまう生徒もいます。2015年度は、生徒2名が中退してしまい、スタッフが相談を続け通信制高校に転入できました。また将来目指している職業を聞いてみると、保母さん・教員・美容師・医療介護系と答える生徒が圧倒的で、他の職業に対する知識をほとんど持ち合わせていません。一方、勉強に前向きに取り組んでいる生徒でも、大学進学に対して経済的不安を抱えながらも誰に相談していいかわからないといった生徒が多く、奨学金の情報を与え、一緒に寄り添いながら申請・受験までのフォローをしていくことが必要です。

高校生への支援は、日本の中では、まだあまり手がついていませんが、高校生を支えることが、ニートや若年ひきこもりの予防につながる非常に重要な事業として、弊団体内でも今後重点的に行なっていく予定です。

**【団体名】**

一般社団法人 子どものエンパワメントいわて

**【URL】**

<http://www.epatch.jp/>

**【申請事業名】**

「学びの部屋」釜石（唐丹中学校、釜石東中学校）、  
「学びの部屋」大船渡（赤崎公民館、大田仮設）

**【メッセージ】**

「学びの部屋」事業では、東日本大震災により被災した岩手県沿岸地域において、学校や地域の中に子どもたちが集う居場所、学習場所を継続して作ってきました。子どもたちが学習に集中できるよう大人がよりそう中で、子どもたち自身の力で意欲や学力が向上するよう継続的な支援をしています。

子どもたちが未来に向かって進んでいけるよう応援し続けていきます。

この度助成をいただけたことに、深く感謝申し上げます。

**【団体名】**

特定非営利活動法人 底上げ

**【URL】**

<http://www.sokoage.org>

**【申請事業名】**

気仙沼市、南三陸町における仮設住宅に入居している小中高生を対象とした学習  
コミュニティ支援活動

**【メッセージ】**

初めまして、NPO 法人底上げと申します。

この度は大変貴重な支援をいただき本当にありがとうございます。

私たちは震災後に関東圏からボランティアとして宮城県気仙沼市に入ったメンバーで構成された団体です。

町のニーズがハード面からソフト面へと移行していく中で、今後の町を担う子ども達が安心して自分たちのまっすぐな気持ちを出表できる場を作っていきたいという思いで、今回ご支援いただいた場を2012年より継続して運営してきました。

震災から5年という月日が経過し、多くのNPO 団体などが活動の継続に悩んでいるということも事実です。

ただ、まだまだ町の中では子ども達にとって安全、安心な場は大きく必要とされており、私たちの活動も微力ではありますが、その助けになればと日々活動しています。

皆様よりいただいたご支援により、活動の継続のみならず、今後どのように自分たちの力を伸ばし、町のニーズに沿ってどのように活動を続けていくことができるか、町のより良い未来へと必要な事象を見定めさらに発展していけるようにいたします。

今後とも宜しく願いいたします。

## 【団体名】

特定非営利活動法人 地球対話ラボ

## 【URL】

<http://www.taiwa.or.jp/>

※Facebook ページ : <https://www.facebook.com/taiwalabs/>

## 【申請事業名】

インドネシア・アチェと東松島市の子ども国際交流事業  
「被災地から未来への対話／壁画の架け橋」

## 【メッセージ】

昨日、2016年度の事業に対して助成金交付通知をいただきました。心から御礼申し上げます。貴財団の助成によって、東松島市で、さらなる発展的な活動を実現できることを想像いたしますと、ほんとうに心が躍ります。

東松島市の宮戸島では、東日本大震災時、四集落のうち三集落が津波で壊滅、人的被害は少なかったものの、島の人口は現在半減しています。さらに、島にひとつだけの学校であった宮戸小学校は、2016年春で閉校となり、地域にとっては二重の打撃でした。当団体は、閉校まで宮戸小学校支援を続けましたが、今後、統合新設校の宮野森小学校で、「国際交流」を新たな伝統とするためのサポートをベースに各活動を展開していきます。

宮戸小学校と、同じ津波被災地であるアチェの子ども達との交流は2013年から行ってきました。そこでは、「子どもたちが目標や夢をもつこと、将来を意識することの大切さ、それが未来を担う子どもたちにとって必要だ」という双方共通の課題が浮き彫りになり、今回助成申請させていただいた活動へつながっていきました。今後は、子どもたちの壁画展示や記録 Web サイト活動を展開し、双方の交流や未来への希望を世界に向けて発信していきます。

当事業によって、子どもたちや地域の人々が、伝統や地域を見つめ直し、被災による負の経験を主体的な情報発信や前進の原動力へと転換できるよう精一杯努めてまいります。

何とぞ、今後ともご支援いただきますよう、どうかよろしくお願い申し上げます。

**【団体名】**

特定非営利活動法人 パクト

**【URL】**

<http://pact-rt311.org>

**【申請事業名】**

陸前高田市内における『子ども支援ネットワーク会議』の継続運営

**【メッセージ】**

この度は、私たちの陸前高田市での活動にご助成いただき、誠にありがとうございます。

東日本大震災から5年が経過する現在、被災地の子どもたちや、子育て世代の方々を取り巻く環境はまだ万全とは言いがたく、地域の中でのつながりや団体同士のネットワークを強くしていくことが必要だと感じております。

震災により甚大な被害を受け、今なおその影響が色濃く残る陸前高田ですが、ここで暮らす子どもたちが将来、「大好きなふるさと」として自らの育った地域に愛着を持つことができるよう、子どもたちがのびのびと成長できる地域づくりのために尽力してまいります。

今後とも、東北の復興や子どもたちの健やかな成長のために、皆様にお力添えいただければ幸いです。

## 【団体名】

一般社団法人 まなびの森

## 【URL】

<http://www.s-1.jp>

## 【申請事業名】

山元まなびの森構想

## 【メッセージ】

震災から5年が経過し、2011年の6月から始まった当団体の活動は間もなく6年目を迎えます。5年前の当時、山元町の子どもたちをめぐる状況は困難を極めていました。「家屋を流された子どもたちだけが被災したのではない、地域の子もたち全員が被災しているのだ」これはご挨拶に伺った中学の校長先生が漏らした言葉です。失うものが無かった子どもなど誰一人いませんでした。一人ひとりの過酷な状況を冷静に言葉でお伝えすることは今も困難です。そして当時予感した「息の長い支援が必要になる」という直感は、ここに来て現実のものになりつつあります。

当団体は、夜間に仮設住宅の集会所で行う学習支援活動に加え、山元町に2つある中学校にスタッフを常駐させ、日中の授業のお手伝い、放課後の学習支援、長期休業中の講習会に取り組んでいます。震災後は町内で育つ中学生ほぼ全員の学習と成長に大なり小なり関わってきました。この春中学を卒業する子どもたちが中学1年生だったころ、分数の四則演算に課題を抱えるケースが多く見られました。そして今年の中学1年生には割り算を苦手にする子どもたちが散見されます。震災直後の1年間をどの学年で過ごしたかが大きく影響を及ぼしているのではないかと予想しています。学校教育が正常化するまでに掛かった期間、家庭環境が落ち着きを取り戻すのに要した時間。その時期に負ったダメージは震災から5年を経過した今になって顕在化しつつあります。ぜひ、これからも東北で育つ子どもたちの未来に暖かな視線と冷静な分析、そしてご支援を注いで下さいませよう、お願い申し上げます。今回賜った助成金は、学習支援活動の場で使用する教材類を整える財源として活用します。学習支援の質を向上させるために大きな支えとなります。このような機会をいただけたことに心から感謝申し上げます。

また、先述した通り、多くの子どもたちが震災後の学習歴の中に課題を抱えたまま成長しております。課題を克服するため振り返りの学習をしながら、同時に現在の学年で学ぶことも習得しなければなりません。個々の状況に応じたきめ細かい学習支援を実現するために、教育出版のリーディングカンパニーでもあるベネッセ様が蓄積された知見をもとに、ご助言・ご指導を与えていただければと存じます。

**【団体名】**

特定非営利活動法人 巨理いちごっこ

**【URL】**

<http://ichigokko.org>

**【申請事業名】**

巨理こどもサポート事業

**【メッセージ】**

東日本大震災において甚大な被害を受けた巨理町において真の復興はこどもたちの教育環境の整備が重要な課題と考えます。学習サポートを行うだけでなく、自分らしく自分を語ることが出来る居場所を作っていくことが急務となっています。貴財団から頂く助成を、被災地のこどもたちの笑顔を広げ、地域全体の元気の源となっていくことが出来るよう活動を展開していきます。応援心より感謝申し上げます。